

平成 30 年度

## 病害虫発生予察特殊報 第 1 号

平成 30 年 9 月 27 日  
茨城県病害虫防除所  
TEL : 0299-45-8200

### トマトフザリウム株腐病の発生について

病 害 名 : トマトフザリウム株腐病  
病 原 体 名 : *Fusarium solani* f. sp. *eumartii*  
発 生 作 物 : トマト

#### 1. 発生確認の経過および国内での発生状況

- (1) 平成 29 年 7 月に県北地域, 平成 30 年 5 月に県南地域, 同年 7 月に県西地域の施設トマト圃場 (促成栽培) において, 地際部の褐変 (写真 1) と立枯れ症状 (写真 2, 3) を示す株の発生を確認した。県農業総合センター園芸研究所において病徴部から菌を分離・同定した結果, 本県では未発生の *Fusarium solani* f. sp. *eumartii* によるトマトフザリウム株腐病と判断した。
- (2) 本病の国内における発生は, 平成 16 年に栃木県で初めて確認され, 平成 27 年に福岡県で確認されている。

#### 2. 病徴

根では, はじめ主根の表面に淡褐色で不整形の病斑が形成され, 次第に拡大しながら褐変腐敗した大型の病斑となる。主根の病斑は上下に拡大進展し, 地際部付近の茎の褐変腐敗となって現れる。葉は下葉から黄化し, 次第に萎凋, 枯死する。根および地際部の褐変腐敗が内部に進展 (写真 4) すると, 株が立枯れ症状を呈する。発病株の果実では, 肥大の不良, 「まだら果」などが発生しやすい。

#### 3. 病原菌の特徴と発生生態

病原菌は糸状菌の一種であり, 菌糸の生育は 10~37℃で認められ, 適温は 28~30℃付近である。

本病は土壌病害であるが, 摘葉にともなう茎の傷口などから感染し, 発病する場合もある。栃木県の促成長期どり栽培 (8 月上旬定植, 10~7 月収穫) では, 10 月下旬頃から発生が始まり, 翌春の 4 月下旬以降, 地際部の褐変腐敗症状を呈した発病株の発生が, 急激に増加するとされる。

#### 4. 防除対策

- (1) 発病株は伝染源となるため, 速やかに抜き取ってビニール袋等に入れて施設外に持ち出し, 地中深くに埋めるなど, 適切に処分する。
- (2) 栽培終了後, 培土や培地内の残渣を取り除く。
- (3) 栽培管理に使用する器具など, 生産資材は消毒する。
- (4) 定植前の土壌消毒の時間を十分長くとする。

## 5. 参考

- (1) 中山・青木 (2010). *Fusarium solani* f. sp. *eumartii* によるトマトフザリウム株腐病 (新称). 日植病報 76: 7-16.
- (2) 中山・青木 (2010). *Fusarium solani* f. sp. *eumartii* によるトマトフザリウム株腐病とその発生生態. 植物防疫 64: 639-642.



写真1 地際部の褐変



写真2 立枯れ症状



写真3 立枯れ症状が多発生する圃場



写真4 茎内部に進展した褐変腐敗